

□登場人物：
サンタクロース
なおと
たくみ
イワオ

□「△△」は地名です。
それは上演地なり架空の街なりお好きにどうぞ。

プレゼントを盗まれたサンタクロースがひとり。
街の片隅で凍えている。

サンタ：ううっ、寒いなあ。〇〇県△△市か…。
さすが関東（or 関西、九州など地方名）一の暗黒街とはよく言ったもんだ。
やっとの思いでたどり着いたと思ったら、車にはねられそうになるし、
あげくの果てには、プレゼントを盗まれてしまうという始末…。
ううっ…たくさんの子どもたちが私を待っているというのに…。

（なおと登場）

サンタ：ああ、きみ。

なおと：はい？

サンタ：このへんで大きな白い袋を持った男の人をみかけなかったかね？

なおと：しーらね（去っていく）。

サンタ：冷たいなあ、どうして△△の人間はあんなに冷たいんだ。
△△だけじゃない、最近の人間はみんな冷たいよ…。
いや、こんなところで落ち込んでいる暇はないんだ。

△△のかわいい子どもたちが私のことを待っているのだから。
がんばらなければ！

(なおと再び登場)

なおと：とかなんとか言っちゃってね。何気に気になるこのおじさん。
こんなところでこんなかっこして何やってんの？

サンタ：何やってんの？って、私はほら、この通り、サンタクロースだよ。

なおと：ふーん。わかった、ケーキ屋さんの宣伝活動？大変だね～。

サンタ：違う違う、私は本物のサンタクロースだよ。

なおと：はあっ？だってさあ、本物のサンタクロースならさ、
プレゼントが入った大きな袋持っているはずでしょ？、
手ぶらってどういうことさ？
袋までプレゼントにあげちゃったの？

サンタ：それはね、さっきいきなり私の目の前に通りかかった男
特殊詐欺グループの男に
盗まれてしまったからなんだよ。
それで私は途方に暮れているんだ…。

-----回想シーン-----

サンタ：メリークリスマス！ 今年もクリスマスプレゼントたくさん持ってきて
やってきましたよ！さあ プレゼントほしい子はいるかなー？

(突然 イワオ登場)

イワオ：サンタさんサンタさん お勤めご苦労様です。
私 警視庁警察本部 サンタ警備部の 中村と申します。
ここだけの話なんですが あのサンタさんのプレゼントの袋に爆薬を仕掛けたと
いう電話がかかってきてですね。

サンタ：ええっ！

イワオ：あまり大きな声は出さないでください。街中がパニックになって大変なことになります。

いったんこちらのプレゼント、爆薬班で確認する必要ございまして、いったんお預かりしてもよろしいでしょうか？

サンタ：もっもちろん！お願いします。

イワオ：かしこまりました。では、いったんお預かりさせていただきます。何の問題もありませんでしたら、10分後にこちらでお返しさせていただきますので、ここでお待ちいただいてもよろしいでしょうか？

サンタ：それは大丈夫です！

イワオ：おそらく電話はただのイタズラだとは思うのですが、日本国民とサンタさんの安全のため、おあずかりさせていただきます！ではごきげんよう！
(プレゼントを持って去る)

サンタ：よろしくお願いします！

-----回想シーンおわり-----

サンタ：10分どころか2時間たっても来ない。それでだまされたと気づいたわけさ。

なおと：まあ ツッコミどころ満載のハナシで 気づかないほうがちょっとというか…

サンタ：ん？

なおと：いやいや、それじゃこまったね。

サンタ：だから大きな袋を持った男を見かけなかったか？
と聞いたわけなのさ。

なおと：なるほど…(客席に顔を向けてニヤリ)

なおと：ねえねえ おじさん、ここは一つ落ちついて
コーヒー(※アルミボトル缶)、飲みなよ。

サンタ：えっ、私にかい？

なおと：うん、話聞いていたら少し可哀そうになってきちゃった、遠慮なく飲んでよ。

サンタ：ありがとう！

なおと：その代わりに サンタさんがおいしそうに飲んでる画 クリスマスの記念に撮っていいかな。

サンタ：もちろんいいよ。私なんかでよければ。

なおと：じゃあ スマホで撮るから せーので飲んでね。
はい、せーの！

サンタ：いただきます。ゴクゴクゴク。
はーあっ！一気に飲んじゃったよ、苦くて辛めなのがいいね。
いやいや、△△の若者も捨てたものではないじゃないか。
こんな心やさしい若者もいるとは。

なおと：あ・・・飲んじゃった。(スマホもどして)

サンタ：ん？

なおと：実はね、タバスコと唐辛子とウスターソースまぜておいたんだけど。

サンタ：ウエッ！なんてことを。

なおと：気にせず飲んじゃったほうが、それはそれでバズっておもしろいかもね。
ありがとうサンタのおじさん。

(たくみ高校時代の制服きて登場)

たくみ：ウィーッス！

なおと：おっいいねえ！クリスマス・マッチングアプリにぴったりのカッコだよ！

たくみ：本当にこんなカッコで大丈夫なの？

なおと：もちろんよ！今時のカッコしていてもさ、

慣れている女の子からはウケが悪いの。
そこでこういう普通とは違うインパクトで引き付けるってわけさ！

たくみ：でもさ、女の子落とすテクニックなんてこれっぽっちもわかってないよ。

なおと：大丈夫だよ、俺は俺で最高のバズるネタ、これに（スマホ）入れてきたからさ。
純情青年をよそおうおまえと、俺のこの最高のネタで今晚の主演間違いなしだ！

たくみ：本当だね！これで毎年毎年一人ぽっちのクリスマス、
ようやく脱出できるってわけだね！やったね！
…で、この方は？？お知り合い？

なおと：あ？見ればわかるだろ、サンタだよサンタ！俺に今年最高のネタを提供してくれた
恩人だ。そんなことよりほらもう時間だぞ、さぁ行くぞ！

たくみ：お、おう。

なおと：それじゃねサンタのおじさん！メリークリスマス～ス！

（なおと&たくみ去る）

サンタ：プレゼントは盗まれるわ 子どもには馬鹿にされるわ せっかくの聖なる夜…、
もう散々な20××年のクリスマス…、いや今年に限らない、
サンタなんて 単なる嘲笑の対象…今やもうこんな時代なのか…。

（暗転）

（なおと&たくみ登場 サンタ舞台はしにたたずんでいる）

たくみ：（半ばブチ切れ）

なんだよ、「タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒーを飲むサンタ」って
女の子みんなひいてたじゃん。なんであんなひどいことすんの？

なおと：いやいや俺も普通の人にやっちゃいけないし、やってもまずうけない、
サンタが平気で飲む画ならさ、うけるかなー、と思ってやったんだよ。

たくみ：同じだっつうの！そんなのウケるわけないだろ今の時代。炎上するだけだわ。
バクッター問題が社会問題になったの知らないの？
あんたがやっていることね、スチローペロペロ男と同じ。
SNSにアップしたら大変なことになるぞ。

なおと：さすがにそんなことまではしないよ。
おまえが、かなり女の子苦手だと思ってたからさあ。
ちょっと強めのネタ仕込んでたんだよ。

たくみ：僕のせい？言い訳すんなっつうの！

(ここでいきなりイワオ、サンタが持っていた袋を持って登場)
(サンタ“おっ！”というリアクション)

イワオ：あーあー、クリスマスクリスマスてよお、
俺が綿密に計画した特殊詐欺に見事にひっかかったと思ったら、

中身全部 やっすい おもちゃじゃねえか。転売にすら役立たない。
いらねーよ、こんなもん。ちくしょう。
あーあーあーあクリスマス？
どいつもこいつも浮かれた顔しやがって。くそっ！

(イワオ、袋置いたまま去っていく)

たくみ：おーい、忘れ物でーす！ああ行っちゃった…。なんだろこれ？

なおと：ありゃりゃ、おもちゃでいっぱいじゃん…

たくみ：どうしてこんなに…子だくさんの家なのかな？

なおと：ん、大きな…白いふくろ…、…そうだ！もしかしたら、さっきの
サンタクロースのかっこしたおじさんのものかも知れない。

たくみ：ああ、さっきうしろでっ立ってた人？

なおと：そうそう！おもちゃがたくさん入った大きな白い袋が盗まれたと
言ってたんだ。

たくみ：うん、たしかに、中身がおもちゃだらけのこんな大きな袋を
持ち歩いている人はそうはいない、
本当にそう言ってたなら、おじさんの袋の可能性が高いな、
今すぐ届けてあげないと！

なおと：まだあそこにいるかなあ？

たくみ：とにかく急いで届けてあげよう！
よし、さっきひどいことをしてしまったお詫びだ！
今年はサンタへのお詫びのためのクリスマス！

なおと：サンタへのお詫びのためのクリスマス？…ま、たまにはいいか、よっしゃ！

（なおと、「よっしゃ」と袋を手にして持ち上げた瞬間、人が変わったように）

なおと：ピーピーピーピー、△△ノ コドモタチガ ワタシヲマッテイル…ワタシヲマッテ
イル

（なおと人が変わったように走っていく）

たくみ：お、おいどうしたんだよお。

（たくみもあとを追う。すみっこで一部始終を見ていたサンタ、舞台中央に移動して）

サンタ：おお、なるほどねえ。こういう展開になるわけか…
今年のクリスマスは彼に任せてみるとするか…。

（暗転）

（音楽が流れ、サンタのかっこをしたなおと、プレゼントを配るパントマイム）

〔 子ども連れのお客が大半の場合は、プレゼントを用意して
実際に配ってあげたりするとなおよいです。 〕

-例-

なおと：はい、△△のよいこたちー、サンタさんですよー

いつもよいこにしてるみんなに、プレゼントをもってやってきましたー

ほしい子はいるかなー？

おっ、いい子だね、来年も再来年もいいこでいるんだよーハイ！（渡す）

ハイ。君にはこれね（渡す）、おとうさんおかあさんと、いつまでも仲よくね！

ハイハイ、君にはこれをあげます（渡す）、えっ？前から欲しかったって？

それはよかった。もう、兄弟げんかなんかしちゃだめだよ。

（こんな感じで繰り返す）

はい！ではまた来年！！

（なおと元気にはける、変わってたくみ登場）

たくみ：おーい、なおと～！

袋持ってどこ行っちゃったんだよ～もう！

（サンタクロース登場）

サンタ：やあ、きみ。

たくみ：あっ、サ、サ、サ、サンタさん。

サンタさんが盗まれたらしいというあの袋、僕たち見つけたんですよ。

サンタさんに、タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒーを
飲ませたクソ野郎、じゃない、さっきサンタさんと一緒にいたあいつが、
サンタさんへのお詫びにって今 サンタさんの袋を持っているんですよ。

持っているのに、持ったままどこかに走って行っちゃって…はあ。

今さがしているところなんですよ。

サンタ：袋を持って走っていった…うん。
君はそのときの彼を見て何か感じなかったか？

たくみ：えっ？

サンタ：袋をもった瞬間に人が変わったかというかね

たくみ：そういえば、なんか高いテンションで走っていったような。
運動会のかけっこですら、一生けんめい走ったこともないのに。

サンタ：（間）実はね、彼は私の代わりにサンタクロースになったのだよ。

たくみ：は？

サンタ：私の持っていたあの大きな袋は、触れるべき者が触れた時に、
威力を発揮するのだよ。
私の代わりに彼は、サンタクロースになったのだよ。

たくみ：あいつが…サンタクロース…？

サンタ：そう。あわてることはないよ。しばらくは彼にまかせておけばいい。

サンタ：…クリスマス・聖なる夜、昔はよかった。
キャンドルに火をともして家族で静かに祈りをささげる。

流れ星を見つめ泣いている子どもたち。

私からプレゼントをもらった時の、子どもたちの天使のような笑顔。
美しく、素晴らしいではないか。

ところがいつの頃からか、クリスマスは単なるドンチャン騒ぎと
化してしまった。

それどころか今や私の存在価値まで見失われつつある。
でも君は、さっき私のことを「サンタさん」と呼んでくれた。
ありがとう。

君は私がサンタクロースだということを信じてくれているのだね。

いや。実際にサンタクロースがいるかいないかなんて、どちらでもいい。

ただ大人になると、多くの人が失ってしまう、サンタクロースを信じるという
純粋な気持ち、それだけはいつまでも忘れないでほしいのだよ。

たくみ：純粋な気持ち…うーんそれは僕にもわからないんだけど、でも

今日というか、今夜だけは信じられそうな気がするんだ。
こんな時代、こんな世の中だからこそ、僕は信じていたいんだ。

自分に正直にね…、ヘッ、ちょっとかっこつけすぎかな？

それより、せっかくのこんなチャンス。
1つサンタさんに質問したいんだけど、
サンタさんって、ほらたとえば煙突のない家には、
どうやって入ったりするのかな？
昔からずっと疑問に思ってたんだ。

サンタ：うーん。教えてあげよう。

それはね、私の赤い服のポケットにはハンカチにくるまれた、

小さな星のかけらが入っているんだ。

ポケットからハンカチを取ると、その星のかけらから、
青い光が放たれて、ドアのカギ穴にすうっと入っていくんだ。
すると、ドアが開いて私を子どもたちのベッドにいざなってくれるのさ。

サンタの服のポケット、この中にはたくさんの夢と希望に満ちあふれた
あたたかいアイテムが入っているのさ。

たくみ：そうなんだ…。(間)…サンタさん、さっきから、ちょっと淋しそう。

サンタ：えっ？

たくみ：淋しそう。

サンタ：淋しい？そんなことないよ。

(カラ元気風に体を動かして) ほらこんなに元気じゃないか。

たくみ、せつなそうにサンタを見つめる

サンタ：どうしたんだい、私の本当の気持ちがわかるのかね？

たくみ：…もうばればれだよ。

サンタ：そうか、まいったなあ。君に一本取られたな。
君ももしサンタクロースになったらわかるよ。
サンタクロースというのはね、

淋しさや哀しさを背中に背負って生きているんだ。
あの、子どもたちや描いている素敵なイメージとは裏腹にね。

だからね、バカにされたり、
タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒー
飲まされるのもしかたないと思っているよ。

淋しいけれど、現実はそのものさ。

たくみ：そ、そんなっ…。淋しさや哀しさって、そんなの、みんな一緒じゃないか。
老いも若きも男も女もサンタさんであろうがなかろうが関係ないよ！

みんなみんな淋しさとか孤独とか不安をかかえながら生きているんだよ！

それなのに、それなのにさあ、
サンタさんが人生知ったかぶりしているだけで一番わかってないのは
サンタさんだよ！そんなのバカだよ！

サンタさんが逃げちゃったら、僕らはどうしたらいいんだよ！

サンタさんを信じている子どもたちが聞いたら、きっと悲しむよ

サンタさんを信じて裏切られた子どもたちは、いったい誰を信じればいいんだよ！

サンタ：(間)・・・ハハハッまいったなこりゃ、
タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒーどころか

シャリがすべてワサビになったお寿司
らん 食べさせられたような気分だよ。

そうだね、私が、これではダメだよね。
いつでもみんなに夢を与えるべき立場の私が、
逆に夢をうばってしまっはね。

たくみ：・・・あっ、ごめんなさい！思わず、調子に乗ったこと言っちゃって・・・

サンタ：いいんだ、いいんだ、君の言う通りだから。ありがとう。

(気まずい雰囲気、ここでなおとテンション高く登場)

なおと：ハイ！サンタクロースデース！
コトシノ クリスマスマモ ブジ プレゼントヲ クバルコトガ デキマシター！
ヤッタネ！

(サンタ、なおとの前で手をパンパンパン！と叩く)

なおと：・・・は？(正気に戻る)あれ、なんで俺、
こんなカッコしてこんなところにいる？？あれれれれ？

サンタ：君はね、私の代わりに果たしてくれたようだね。

なおと：はぁ？

たくみ：サンタさん、実は僕もさびしかったんだ。
それをまずサンタさんにぶつけちゃって…本当にごめんなさい。

サンタ：いや、君の言うとおりのだから。私は何も言い訳はしないよ。
子どもたちに夢や希望を与えなければならないはずの私が、
今夜は君に励まされてしまったね。

なおと：サンタさん さっきは タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒーを
飲ませてしまってごめんなさい。

サンタ：いいよいいよ これをきっかけにね 今からでも遅くはない
しっかり人の気持ち、人の痛みがわかる人間になるのだよ。

なおと：はい！ありがとうございます。
(間 腕時計を見て) うわっ、もうこんな時間かよ！！

たくみ：あぁ今年はもういいや、女の子とのクリスマス過ごすのは
20XX年(来年)にかけるよ。明日は大雪になるっていうから
ホワイトクリスマス記念にふさわしい、男同士二人でカラオケ
に行きますかぁ！

なおと：泣きのホワイトクリスマスカラオケ大会か、まぁいいや！
それで盛り上がるとするか！
それじゃサンタさん、また来年、メリークリスマス！

たくみ：じゃあメリークリスマス！

サンタ：おおっ、メリークリスマス！

(なおと&たくみ歌うたいながら去る)

サンタ：あぁ行ってしまったな…。
20XX年(今年)のクリスマス・イヴ、いろいろあったが

今年はこういうストーリーで終了か…。
まあ、めでたしめでたしとしよう！

…ん、やけにまぶしいな…あぁイルミネーションか…
きれいだなあ。
△△という街も、こうして見ると、
本当は素敵な街なのかも知れないなあ。

(サンタ、舞台袖に箱があるのに気づく)

サンタ：あれ、あんなに箱がある。
でっかく「サンタさんへ」で書いてあるぞ。
まさか私にプレゼント？私がもらうなんて初めてだ…、
と、とりあえず開けてみるとしよう…

(サンタ、舞台袖にはけて)

サンタ：(舞台袖から) こ、これは！

暗転
エンディング音楽

(※サンタクロースのかっこした本物のサンタ三人登場)

本物のサンタA (たくみ)：
一人の男へ贈る、「夢」という名のクリスマスプレゼント。

本物のサンタB (イワオ)：
うまくってよかったですね～。

本物のサンタC (なおと)：

大人になると夢を持ち続けるのは難しいけれど、
せめて夢の中で叶えられればね。

本物のサンタA（たくみ）：
それが僕達の仕事。それじゃ、また来年。
20XX年（今年）のクリスマスから、
20XX年（来年）のクリスマスへ…。

※3人のサンタクロース去っていくが
去り際

本物のサンタC（なおと）：タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒーはタイトです
ね

本物のサンタB（イワオ）：「特殊詐欺」というのはリアリティありすぎてクリスマスにはち
よっと…

本物のサンタA（たくみ）：また来年にそのへん再検討しましょう
明るくブツブツ言いながら去る

（暗転）

（男[=サンタ]、背広姿で登場）

男（サンタ）：いやあ、昨日の夜さ、不思議な夢見たよ。

サンタになった夢！俺が！

サンタになった夢だよ！

それでもって

サンタになって「タバスコ・唐辛子・ウスターソース入りコーヒー」を
飲まされるの！

サンタクロースって華やかなイメージだけどさ、

あの世界も大変なんだな～ホント！

でも目覚めよかったよ～

今日から仕事、またがんばれそうな気がするよ。

あっもう時間だよ、時間。

それじゃ、行ってきまーす！

(袖にはけて)

男（サンタ）：うわぁ、雪降ってるよ～！

雪だよ！雪！

今年は、ホワイトクリスマスになりそうだなぁ・・

『サンタクロースへの贈り物』 終わり